



0101

海軍公報

第四八二〇號

昭和十九年十月七日(土)

海軍大臣官房

〇令 達

達第三四一號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦二隻、潜水艦四隻、海防艦十三隻及輸送艦二隻ヲ左ノ通命名ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

佐世保海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 夏月 (ナツツキ)

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 葛 (ツタ)

伊號第三百七十三潜水艦

吳海軍工廠ニ於テ建造

伊號第二百五潜水艦

第十四號輸送艦

第十五號輸送艦

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

波號第百八潜水艦

波號第百十潜水艦

三井造船株式會社玉野造船所ニ於テ建造

海防艦 男鹿 (ヲシカ)

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 竹生 (チクン)

日立造船株式會社ニ於テ建造

海防艦 崎戸 (サキト)

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第五十七號海防艦

第五十九號海防艦

日本海船渠株式會社ニ於テ建造

第六十五號海防艦

浪速船渠株式會社ニ於テ建造

第二百十九號海防艦

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

第一百二號海防艦

第一百四號海防艦

株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造

第一百六號海防艦

株式會社播磨造船所ニ於テ建造

第一百四十四號海防艦

秘海軍公報 第四八二〇號 昭和十九年十月七日

一三四三

内令第一一四二號
昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件申
左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令提
要登載

「福岡海軍航空隊」ノ下ニ「小富士海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照)

内令第一一四三號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改
正セラル

昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令提
要登載

横須賀鎮守府ノ部中父島海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

北東海軍航空隊

美觀航空基地(北海道網走郡)

同部中東カロリン海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

馬來海軍航空隊

厚木航空基地(神奈川県高座郡)

同部中第七〇五海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第七二海軍航空隊

百里原航空基地(茨城県茨城郡)

同部中第一〇二二海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第一〇三海軍航空隊

木更津航空基地(千葉県木更津市)

同部中第五〇二海軍航空隊及第七〇五海軍航空隊ノ各項ヲ削ル
吳鎮守府ノ部中菲島海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

東印海軍航空隊

岩國航空基地(山口縣岩國市)

同部中第九三二海軍航空隊及第九三四海軍航空隊ノ各項ヲ削ル
佐世保鎮守府ノ部中福岡海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

小富士海軍航空隊

福岡縣糸島郡

同部中第五五三海軍航空隊ノ項ヲ削ル

左ノ地ニ海軍航空隊分遣隊ヲ置ク部中福岡海軍航空隊小富士分
遣隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四〇ノ一頁参照)

内令第一一四四號

海軍練習航空隊ニ指定ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令提
要登載

「福岡海軍航空隊」ノ次ニ「小富士海軍航空隊」ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ四二ノ一頁参照)

0102

官房人機密第一七九八號
昭和十九年九月三十日附高等官六等ニ陞等セル海軍技師中副部
員又ハ副課員タリシ者ハ同日附ヲ以テ各々其ノ廳ノ部員又ハ課

員ニ補セラレタルモノトス
昭和十九年九月三十日

海軍大臣

官房第一一七〇號

昭和十九年度新造計畫雜役船(特型運貨船)ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十九年十月五日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	製造所	計畫番號	完成期
第二〇八一號	特型運貨船 (十七米)	佐世保防備隊	臨時附屬	三菱下關造船所	九一四四六一	十九年四月
自第二〇〇九九號 至第二〇〇八二號	同 (十八隻)	同	同	同	自九一四四七九 至九一四四六二	自同年五月 至同年三月
第二一〇〇號	同 (同)	同	同	名村造船所	九一四四八六	同年四月
自第二二〇一二號 至第二二〇二二號	同 (十二隻)	同	同	同	自九一四四八七 至九一四四八七	自同年五月 至同年二月
第二二一三號	同 (同)	同	同	佐野安船渠會社	九一四五〇二	同年四月
自第二二二一九號 至第二二二四號	同 (六隻)	同	同	同	自九一四五〇三 至九一四五〇八	自同年五月 至同年七月

記 事

秘海軍公報 第四八二〇號

昭和十九年十月七日

一三四五

0103

自第 二五〇〇 號至第 二五〇五 號	自第 二五〇六 號至第 二五一一 號	第 二五二 三號	自第 二五二四 號至第 二五二九 號	自第 二五三〇 號至第 二五三五 號	自第 二五三六 號至第 二五四一 號	自第 二五四二 號至第 二五四七 號	自第 二五四八 號至第 二五五三 號	自第 二五五四 號至第 二五五九 號	自第 二五六〇 號至第 二五六五 號	自第 二五六六 號至第 二五七一 號	自第 二五七二 號至第 二五七七 號	自第 二五七八 號至第 二五八三 號	自第 二五八四 號至第 二五八九 號
特 種 運 貨 船	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
(六 七 隻)	(七 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)	(同 隻)
佐 世 保 防 備 隊	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
臨時 附 屬	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
佐 野 安 船 渠 會 社	三 光 造 船 所	宮 地 鐵 工 所	佐 野 安 船 渠 會 社	三 菱 下 關 造 船 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所	宮 地 鐵 工 所
至 自 九 一 四 五 〇 九	至 自 九 一 四 五 一 八	九 一 四 五 二 五	至 自 九 一 四 五 三 七 六	至 自 九 一 四 五 四 八 五	至 自 九 一 四 五 五 九 四	至 自 九 一 四 五 六 〇 三	至 自 九 一 四 五 七 一 二	至 自 九 一 四 五 八 二 一	至 自 九 一 四 五 九 三 〇	至 自 九 一 四 五 〇 四	至 自 九 一 四 五 一 五	至 自 九 一 四 五 二 六	至 自 九 一 四 五 三 七
至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月	至 同 年 十 月 月
(月 二 隻)	(月 一 隻)	(月 一 隻)	(月 三 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)	(月 二 隻)

0104

公稱番號		船種	所屬	定數別	製造訓令番號 (製造所)	計畫番號	完成期
自第	至第						
自第一六一一號	至第一六一一號	同 (同十六隻)	舞鶴防備隊	同	昭和十九年官房艦機 密第四四二五號(舞)	自九九一〇〇九六一	自十九年八月 至同(月四隻)
自第一四六一號	至第一四六一號	同 (百五十隻)	佐世保防備隊	同	田中車輛會社	自九九一六四〇一	自二十年三月 至同(月十五隻)
自第一四〇一號	至第一四〇一號	同 (六十隻)	橫須賀防備隊	同	日本車輛製造會社	自九九一五四八〇	自十九年四月 至同(月十隻)
自第一三五一號	至第一三五一號	同 (五十隻)	佐世保防備隊	同	若松車輛會社	自九九一一一六〇	自二十年二月 至同(月十隻)
自第一三三一號	至第一三三一號	同 (二十隻)	佐世保防備隊	同	日本車輛製造會社	自九九一一一六四〇	自十九年九月 至同(月五隻)
自第一三七〇號	至第一三七〇號	同 (六十隻)	橫須賀防備隊	同	日本車輛製造會社	自九九一七八〇	自二十年三月 至同(月十隻)
自第一七〇號	至第一七〇號	同 (五十隻)	橫須賀防備隊	同	汽車製造會社	自九九一三五〇一	自同(月八隻)
自第一一〇八號	至第一一〇八號	同 (八隻)	佐世保防備隊	同	世保 昭和十九年官房艦機 密第三九五八號(佐)	自九九一二二八八	同 年七月
自第一〇〇七號	至第一〇〇七號	同 (七隻)	佐世保防備隊	同	世保 昭和十九年官房艦機 密第三九五八號(佐)	自九九一二二八一	十九年六月
自第一〇〇一號	至第一〇〇一號	特選運貨船 (百十四隻)	橫須賀防備隊	臨時附屬	橫河橋梁製作所	自九九一二八〇一	自十九年三月 至二十年六月 (月十隻)

0105

至自 第 三 〇 一 號	至自 第 二 一 〇 號	至自 第 一 九 七 號	至自 第 一 九 七 號	至自 第 一 九 四 〇 號	至自 第 一 八 七 〇 號	至自 第 一 八 七 〇 號	至自 第 一 七 四 〇 號	至自 第 一 七 四 〇 號	至自 第 一 六 六 八 號	至自 第 一 六 六 七 號	至自 第 一 六 四 六 號	特 型 運 貨 船 (十 四 米 二 十 隻)
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	(十 隻)	
佐 世 保 防 備 隊	橫 須 賀 防 備 隊	同	同	同	同	同	佐 世 保 防 備 隊	橫 須 賀 防 備 隊	同	佐 世 保 防 備 隊	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
密 昭 和 三 〇 四 年 官 房 機 機	須 密 昭 和 三 〇 四 年 官 房 機 機	字 品 造 船 所	字 品 造 船 所	九 州 造 船 若 松 工 場	若 松 車 輛 會 社	松 尾 橋 梁 製 作 所	日 立 製 作 所	汽 車 製 造 會 社	日 立 製 作 所	日 立 製 作 所	鶴	
至自 九 九 一 一 八 九 〇	至自 九 九 一 九 〇	至自 九 九 一 八 八 七 四	至自 九 九 一 八 八 七 六	至自 九 九 一 〇 〇 八 〇	至自 九 九 一 〇 〇 二 〇	至自 九 九 一 〇 〇 七 七 〇	至自 九 九 一 〇 一 四 五	至自 九 九 一 四 三 五 〇	至自 九 九 一 九 三 七	至自 九 九 一 九 二 六	至自 九 九 一 〇 九 七	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	至 同 十 九 年 十 月 十 日	

官房經第九三六號
國防獻金等取扱手續中左ノ通改正ス
昭和十九年十月五日

海軍大臣

第八條 分任出納官吏ノ受領シタル獻金ハ每一月分ヲ取纏メ寄附者名簿(別紙様式)ヲ添ヘ翌月月頭ニ海軍省經理局出納官吏ノ當座預金口座ニ振込ミ又ハ適宜ノ方法ニ依リ海軍省經理局出納官吏ニ送付スベシ
別紙様式ヲ別紙ノ如ク改ム
(別紙添)

(會計法規類集一卷 四三六ノ七頁參照)

官房人機密第一八二八號

防衛召集應召員ノ配員等取扱規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月六日

海軍大臣

内令
要登載

題名中「防衛召集」ノ下ニ「及徵備船船長召集」ヲ加フ
第六條 徵備船船長召集ヲ令セラレタルトキハ別ニ辭令等ヲ用ヒズンテ現ニ乗組中ノ船長ヲ使役スル艦船部隊官衙ノ所屬スル鎮守府(海軍省配屬船船長乗組中ノ者ニ在リテハ當該船船ノ所管鎮守府)、警備府又ハ艦隊司令部ニ附トシテ配員シ同所轄ヨリ乗組ノ船長ニ派遣セラレタルモノトス
徵備船船長召集中ノ人員ハ前項ニ掲グル鎮守府、警備府又ハ艦隊司令部ニ臨時増置セラレタルモノトス

○通牒

官房備第三二九號

昭和十九年十月五日

海軍省副官

内令
要登載

關係各廳長殿

南西諸島及臺灣所在海軍部隊發着公用郵便物
速達ニ關スル件通牒

南西諸島及臺灣所在海軍部隊發着公用郵便物ニシテ至急ヲ要スルモノハ左記要領ニ依リ「急送扱」ノ取扱ヲ爲スコトニ定メラレ候條了知相成度
記

一 郵便物ノ表面ニ「急送扱」ノ文字ヲ朱記スルコト

二 左ノ各局窓口ニ差出スコト
イ 内地ヨリ南西諸島及臺灣宛

大本營内局(海軍部)、大湊局、横須賀局、大阪中央局、東

舞鶴局、吳局、佐世保局

ロ 南西諸島ヨリ内地宛

那覇局

ハ 臺灣ヨリ内地宛

臺北局、高雄局

三 内地ヨリ南西諸島及臺灣宛本件郵便物ハ夫々那覇局、臺北局又ハ高雄局ニ送達セラレル處同局ニ於ケル之方配達ハ一般郵便物ト同様ニ取扱フベキニ付現地部隊ハ必要ニ應ジ之方受

秘海軍公報 第四八二〇號 昭和十九年十月七日

一三四九

取方ニ關シ右局ト連絡ノ上適當ニ措置スルコト
 四 其ノ他急送扱公用軍事郵便物ニ關スル取扱ト同様ナルコト
 軍務一機密第九三四號
 昭和十九年十月四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

飛行專修(要務)豫備學生生徒ノ配置ニ關スル件申進

昭和十九年九月二十八日附各艦船部隊ニ配屬セラレタル首題豫備學生生徒ハ目下航空部隊ニ於ケル准士官以上ノ配員不足シアル實狀ニ鑑ミ可及的飛行科准士官以上ニ對スル机上諸要務ノ負荷ヲ軽減セシムルノ趣意ナルニ依リ概ネ左記配置ニ就カシメ可然教育指導方取計相成度

記

- 一 飛行士及飛行隊士
- 二 飛行分隊士、整備分隊士及兵器分隊士
- 三 航空隊副官事務輔佐
- 四 司令部幕僚事務輔佐

軍密二機密第九二九號
 昭和十九年十月四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料材料品細目ニ關スル件通牒
 燃料製造用砂糖ハ燃料經理規程別表第二製造材料トシテ處理相成度
 (昭和十九年七月二十六日達第三三五號參照)

軍密二機密第九三〇號
 昭和十九年十月四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料等ノ貯藏供給ニ關スル件中改正ノ件通牒
 昭和十三年軍需機密燃第二五七號通牒首題ノ件中一、貯藏ノ部(四)原料ノ貯藏ノ表中、乳化防蝕油ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

一號凝固點降下劑	一降劑	S	重油凝固點降下劑
二號凝固點降下劑	二降劑	P	外部礦油凝固點降下劑

(機密用品、燃料取扱例規三九五頁參照)

艦本機密第一號ノ一七二二一
 昭和十九年十月三日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

假稱四式時限信管及假稱四式薄火筒供給並ニ使用ニ關スル件照會
 首題兵器ハ兩者ヲ併用シテ初メテ臚中安全性ヲ確保シ得ルモノ

0108

ナルニ付之方供給又ハ使用ニ際シテハ假稱四式時限信管用トシテハ必ズ假稱四式傳火筒ヲ供給セシムル様取計相成度
 追テ在庫量僅少ノ現狀ニ鑑ミ假稱四式傳火筒ヲ九一式傳火筒ノ代ニ供給又ハ使用スルガ如キコト無キ様特ニ留意セシメラレ度

航本機密第一二二七六號

昭和十九年十月一日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

航空揮發油丙(「アルコール」混合航揮)使用
 ニ對スル氣化器調整ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ航本機密第九四〇二號(秘海軍公報第四七五七號所載)ヲ以テ既ニ申進セル處其ノ後實驗ノ結果左記ノ通變更スルヲ適當ト認メ候條了知相成度

機體	發動機	使用區分	在來ノ調整	丙揮發油使用ノ場合ノ調整
九三中練	天風一〇型	七〇揮丙	主噴口流量 〇每分一七五 〇立方糎	調整變更ヲ要セズ、但シ未改造氣化器ニテ氣温一七乃至一八度以下ノ場合ニハ加速稍不良ナルモノハ微速「ハ」ニヤリ最濃ニシ給氣加熱裝置ヲ「7」10ニナスヲ要ス
白菊	天風二〇型	八五揮丙	主噴口流量 〇〇乃至一三五 〇〇立方糎	流量每分一八〇〇立方糎ノ主噴口ニ換裝ヲ要ス

秘海軍公報 第四八二〇號

昭和十九年十月七日

一三五

〇感狀

千田海軍少將ノ指揮セル

- 第二十八根據地隊司令部ノ一部
- 第十九警備隊ノ一部
- 第三十三防空隊
- 第一百五防空隊
- 第二、百二設營隊
- 第一海軍燃料廠第一調査隊
- ビア架城隊

昭和十九年五月中旬以降海空ヨリスル敵ノ砲撃下ニ克ク「ビアク」島航空基地ヲ守備シ五月二十七日優勢ナル敵同島ニ上陸シ來ルヤ所在陸軍部隊ト協力果敢ナル反撃ヲ加ヘテ之ヲ水際ニ壓迫シ永ク其ノ進出ヲ阻止スル所アリシガ海空陸ノ敵次第二増加スルニ及ビ我方死傷續出シ彈藥糧食亦缺乏ニ瀕スルモ更ニ屈セズ二箇月有餘ニ亘リ寡兵克ク衆敵ヲ拘束シテ其ノ西進ヲ抑留シタルハ全軍ノ作戰ニ寄與スル所極メテ大ニシテ其ノ武勳顯著ナリト認ム

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年七月三十一日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

九〇機練	改二	八〇揮丙	主噴口日盛 「ニコ」日盛 十一	主噴口日盛 十一 一回轉濃ニナスヲ可ト 認ム
------	----	------	-----------------------	---------------------------------

○雜 款

○十版内令提要追録第十八號(十九年八月三十一日現在)十月三日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

(海 軍 省 副 官)

○入校式施行

十月十日(火)一〇三〇ヨリ第七十五期豫備生徒入校式ヲ施行ス

(横須賀海軍砲術學校長井分校)

○移轉

高雄海軍運輸部基隆支部ハ九月十九日左ニ移轉セリ
基隆市日新町一丁目一番地 電話番號 一六一七

○轉勤者赴任先並ニ書類發送先ノ件

パラオ、ダバオニ本院ノ分院ヲ設置セラレ候處轉勤者ノ赴任先並ニ書類發送方ハ左ニ依リ取計相成度

一 轉勤者赴任先

分院ヘノ轉勤者ハ直接分院ニ向ケ赴任ノコト

二 給與通牒

各分院所在地ニアル第百三海軍經理部支部資金前渡官吏宛トスルコト

(第百三海軍病院)

○事務開始

第四十九號海防艦艇裝具事務所ヲ九月十四日横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記 事
十月十三日 一〇〇〇	故海軍大佐青山英夫外諸勇士	山形地方海軍人事部長	山形市第四國民學校	佛式
十月十四日 一〇三〇	故海軍少佐梅津武雄外諸勇士	盛岡地方海軍人事部長	盛岡市縣公會堂	同
十月二十七日 一三〇〇	故海軍大尉佐藤梅藏外諸勇士	秋田地方海軍人事部長	秋田市市記念會館	同
十月三十日 同	故海軍少佐山内操外諸勇士	大湊海軍人事部長	青森市市公會堂	同

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四八二二號

昭和十九年十月九日(月)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍機密第一二七六號
大東亞戰爭兵器經理規程第十八條ノ規定ハ艦隊司令長官ニ之
ヲ準用ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

官房軍機密第一二八二號

海軍航空本部真空管生産技術指導委員會規程左ノ如ク

昭和十九年十月六日

海軍

海軍大臣

海軍航空本部真空管生産技術指導委員會規程

第一條 海軍航空兵器用真空管特ニFMニA及「ソラ」ノ歩
止リ向上及品質ノ徹底的改善ヲ圖ル爲海軍航空本部ニ海軍航
空本部真空管生産技術指導委員會ヲ置ク

第二條 本委員會ハ陸海軍真空管生産委員會、陸海軍(除航空)
技術委員會、陸海軍航空技術委員會、陸海軍電波技術委員會、
海軍艦政本部真空管生産促進調査會及電波兵器行政査察事務
處理委員會ト緊密ナル連繫ヲ保テ目的達成ニ遺憾ナキヲ期ス
ルモノトス

第三條 本委員會ニ於ケル審議決定事項ハ之ヲ速ニ常務機關ニ
移シ實行スル如ク措置スルモノトス

第四條 本委員會ハ必要ニ應ジ分科會及専門委員會ヲ置クモノ
トス

第五條 本委員會ニ委員長、委員及幹事ヲ置ク其ノ組織ハ別表
ニ依ル

第六條 委員長ハ會務ヲ總理ス

第七條 委員ハ議案ヲ審議ス

第八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ會務ヲ促進整理及庶務ヲ掌ル

第九條 本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外本委員會ニ關シ必要ナ
ル事項ハ委員長ノ定ムル所ニ依ル

(別表添)

官房人第一〇三一號

召集中ノ海軍豫備士官ニシテ本年勅令第二百七十八號海軍豫備
員ヨリスル海軍武官任用等特例ノ規定ニ依リ現役ノ海軍士官タ
ラシコトヲ志願スルモノノ出願範圍竝ニ願書及考課表ノ進達ニ
關シ左ノ通定ム

昭和十九年十月六日

海軍大臣

一 志願者ノ範圍

秘海軍公報 第四八二二號 昭和十九年十月九日

一三五三

0112

(イ) 飛行(操縦及偵察)又ハ兵器整備專修ノ海軍豫備學生出身ノ豫備士官ニシテ現ニ海軍大尉タルモノ及昭和十九年一月二十日海軍中尉ニ進級シタルモノ
 (ロ) 飛行機整備專修ノ海軍豫備學生出身ノ豫備士官ニシテ昭和十九年五月一日以前海軍大尉ニ進級シタルモノ
 (ハ) 高等商船學校出身ノ豫備士官ニシテ昭和十八年六月一日以後海軍大尉ニ進級シタルモノ及同出身ノ中少尉

二 願書及考課表進達期限
 昭和十九年十月三十一日但シ遼隔ノ地ニ在リテ所定期日迄ニ進達困難ト認ムル場合ハ所轄長ヨリ任用適任者ノ氏名ヲ電報報告スルモノトス

(諸例則卷二、一五六ノ四頁参照)

官房經機密第一六〇五號
 大東亞戰爭中雇員備人規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル雇員及備人ノ職名變更通報ハ之ヲ省略スルコトヲ得
 昭和十九年十月七日

海軍大臣

○ 通 牒

海人三機密第二〇號ノ二〇

昭和十九年十月一日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

第十四期飛行專修、第四期一般兵科、第八期整備專修豫備學生及第一期豫備生徒ノ任用及採用ニ關スル件申進

首題豫備學生、同生徒ノ少尉任用及少尉候補生採用期日ハ昭和十九年十二月二十五日ト定メラレ候條任用及採用資料等左記ニ依リ調製ノ上直接進達相成度

一 任用候補、採用候補名簿ノ調製

(イ) 調製期日

昭和十九年十月十五日

(ロ) 進達期日

昭和十九年十一月十日

(ハ) 調製要領

所轄別、豫備學生豫備生徒別、專修班(昭和十九年七月五日部内限公報第四七三三號参照)別トシ更ニ之ヲ成績順ニ序列ス

二 不任用候補、不採用候補名簿ノ調製

(イ) 前號名簿ニ登載シ得ザルモノアルトキハ罷免豫定、次期編入豫定及修業延期豫定別トシ共事由(修業延期ニ對シテハ延期期間)ヲ附記スルモノトス

(ロ) 調製期日、進達期日

前號ニ同シ

三 候補名簿調製期日以後ニ於テ第一、第二號名簿ニ異動ヲ生

シタルトキハ事由ヲ附シ其都度速ニ報告スルモノトス

0113

四 第一、第二號ニ依リ候補名簿ニ登載セラレタル者ニシテ所屬ヲ變更シタルトキハ舊所轄長ヨリ新所轄長ニ速ニ登載名簿別ヲ移牒スルモノトス

五 不任用候補、不採用候補名簿ニ登載セラレタル者ニ對スル罷免具中、次期編入修業延期上申書類ハ十一月末日迄ニ調製送付スルモノトス

海人第二二號ノ一〇九
昭和十九年十月七日

海軍省人事局長

關係所轄長殿
豫備士官專修科目變更ノ件通知
左記ノ者ハ孰モ十月一日附專修科目「飛行班」ヲ「要務班」ニ電報區別符「ヨヒ」ヲ「ヨヨ」ニ變更セラレ候

官等	氏名	專修別		電報符	
		舊	新	舊	新
少尉	田中 政孝	飛行班	要務班	ヨヒ一五七五	ヨヨ一五七五
同	久保 治雄	同	同	ヨヒ一六七〇	ヨヨ一六七〇
同	須賀 保	同	同	ヨヒ一二二二	ヨヨ一二二二
同	稻住 榮三	同	同	ヨヒ一四一六五	ヨヨ一四一六五
同	伊藤 安憲	同	同	ヨヒ一四五五六	ヨヨ一四五五六

同	中川 忠六	同	ヨヒ一四九二八	ヨヨ一四九二八
同	清野 隆	同	ヨヒ一五一五〇	ヨヨ一五一五〇
同	福井 重利	同	ヨヒ一五二〇七	ヨヨ一五二〇七

航本機密第一二四八九號
昭和十九年十月七日

海軍航空本部總務部長

海軍航空技術廠總務部長
第二十二、二十一、海軍航空廠總務部長
第二十二、二十一、三十一、海軍航空廠長
四十一、五十一、海軍航空廠長
沼津海軍工廠總務部長
九六式空四號無線電信機改造打切ノ件通知
昭和十六年艦本機密第三號ノ一〇六二〇通牒(昭和十六年十一月八日(海軍公報部内限参照)首題ノ件ハ現状ヲ以テ打切ノコトニ定メラレ候

○表彰

海軍大尉 石井信太郎

右ハ通信要具ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ銀杯一箇ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス(九月二十一日海軍大臣)

○雜款

○集會所設置
佐世保水交社鹿兒島集會所ヲ九月二十一日附鹿兒島市下荒田町

海軍公報 第四八二二號 昭和十九年十月九日

一三五五

天保山別館ニ設置セリ

(佐世保水交社)

○移轉

臺灣海軍航空隊本隊ハ九月十八日舊高雄海軍航空隊(高雄航空基地)ニ移轉セリ

○事務開始

第二百十九設營隊ハ九月二十七日吳海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

大湊海軍經理部札幌支部ハ九月二十七日左記ニ於テ事務ヲ開始セリ

記

北海道札幌市北一條西四丁目二番地

北海道商工經濟會内

大湊海軍經理部札幌支部

伊號第二百二潜水艦艇裝員事務所ヲ十月一日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話番號 准士官以上事務室 吳工廠 三〇〇八番 庶務同上)

○事務所撤去

第五十二號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十五日之ヲ撤去セリ

伊號第三百七十一潜水艦艇裝員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

リ

第三百四設營隊(横濱在勤海軍武官府氣付船舶警戒部第五兵會内)事務所ハ十月一日之ヲ撤去セリ

第百六十號輸送艦艇裝員事務所ハ十月一日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

呂號第五百一潜水艦殘務整理ハ第八潜水艦隊司令部ニ於テ之ヲ行フ

0115

(官房軍機密第一二八二號別表)

委員長
海軍航空本部
第四部長

員		委	
海軍航空本部第四部第一課長	一	海軍航空本部部長兼軍需省軍需官	一
海軍航空本部部長	一	海軍電波本部技術部第四課長	一
海軍電波本部技術部第四課長	一	海軍電波本部部長	一
海軍艦政本部部長	一	海軍航空技術廠支廠電氣部長	二
海軍航空技術廠支廠電氣部長	二	海軍航空技術廠支廠電氣部部長	二
海軍航空技術廠材料部部長	二	海軍航空兵器總局第二局電氣課長	二
海軍航空兵器總局第二局電氣課長	二	軍需省航空兵器總局第二局電氣課員	二
軍需省航空兵器總局第二局電氣課員	二	海軍監督官兼軍需省軍需監理官 (東京)	二
海軍監督官兼軍需省軍需監理官 (東京)	二	海軍監督官兼軍需省軍需監理官 (大阪)	二
海軍監督官兼軍需省軍需監理官 (大阪)	二	軍需省機械試驗所名古屋支所長	二
軍需省機械試驗所名古屋支所長	二	東京芝浦電氣株式會社電子工業研究所員	一
東京芝浦電氣株式會社電子工業研究所員	一	日本無線株式會社社員	一
日本無線株式會社社員	一	川西機械製作所社員	一
川西機械製作所社員	一	住友通信工業株式會社社員	一
住友通信工業株式會社社員	一	松下電器産業株式會社社員	一
松下電器産業株式會社社員	一	海軍航空本部部長兼軍需省軍需官	一

(昭和十九年十月九日祕海軍公報)

備考 一 軍需省及各會社ノ者ハ海軍航空本部囑託トシテ本委員ヲ命ズルモノトス

二 委員中(ケ)ハ幹事兼任トス

三 本表ノ外必要ニ應ジ學識經驗アル者ヲ委員會ニ参加セシムルコトヲ得



海軍公報 第四八三三號

昭和十九年十月十日(火)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一一四五號

除毒劑定額標準中左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

内令提
要登載

海軍大臣

「三號除毒劑

第二號中

(ロ)(イ) 外戰部隊定員一人ニ付一疋
内戰部隊定員三人ニ付一疋
但シ學校、海兵團及練習航空
隊八十人ニ付一疋

「三號除毒劑 定員一人ニ付一疋

但シ海兵團練習航空隊及各種練習生八五ニ改ム
人ニ付一疋

官房設機密第一九四五號

左ノ各號ニ依リ本年内令第一七八二號ニ依ル鎮海及高雄海軍
施設部教導班要員ニ對シ講習ヲ實施ス

所轄長ハ第一號ノ講習員ヲ講習開始前日迄ニ當該海軍施設部ニ
派遣スルト共ニ其ノ官階氏名ヲ講習開始三日前迄ニ當該海軍施
設部長ニ通報スベシ

昭和十九年十月六日

海軍大臣

秘海軍公報 第四八三三號 昭和十九年十月十日

講習期間、場所、指導官、講習員

講習期間	場所	指導官	講習員	記 事
十月十五日 日曜日	吳海軍施設部教導班	首席指導官 當該海軍施設部部長	本年内令第一七八二號ニ依ル臨時増置員ノ内吳鎮守府在籍者(施設系ヲ除ク)	一期間ハ講習員ノ兵種別ニ應ジ若干之ヲ仲縮スルコトヲ得
十月十六日 月曜日	佐世保海軍施設部教導班	當該海軍施設部部長	内令第一七八二號ニ依ル臨時増置員ノ内佐世保鎮守府在籍者(施設系ヲ除ク)	講習終了後夫々鎮海及高雄海軍施設部ニ赴任セシムルモノトス

講習科目

講習科目	日	記 事
(一) 築城兵術概要 築城施設一般及施工法 施設機械一般並ニ機械化施工法 機械化部隊指揮法 設營班ノ編制及教程標準 設營隊概要 運輸、設營關係法規並ニ事務一般	(一) 十月十日 (二) 十月十一日 (三) 十月十二日 (四) 十月十三日 (五) 十月十四日 (六) 十月十五日 (七) 十月十六日	講習科目ハ講習員ノ兵種別ニ應ジ適宜取捨選擇スルコトヲ得

0117

一三五七

三 經費

- (イ) 旅費ハ各講習實施廳既配付ノ臨時軍事費(款項)雜給及雜費(目)出張旅費(節)
- (ロ) 其ノ他ハ當該海軍施設部既配付ノ臨時軍事費(款項)營繕費(目)作場費(節)

官房空機密第二五四二號
昭和十八年官房空機密第一四九七號別紙中左ノ通納正令提
昭和十九年十月九日

海軍大臣

二 呼稱法中(二)ヲ左ノ如ク改ム

(二) 機體發動機ノ型式標示ノ數字二字及要スレバ甲乙丙…
ヲ附ス(十位ハ機體、一位ハ發動機、甲乙丙…ハ兵裝ノ型
ヲ示ス)

但シ兵器採用時ノ機體發動機及實用機ヲ練習機ニ改造セル
モノニ對シテハ一型トス

(例) (三)ノ次ニ(四)ヲ追加ス
(四) 迅雷一二型ノ射撃兵裝ヲ變更セルモノ(機體外
形ニ大ナル差異ナキモノ) 迅雷一二甲型

○ 通 牒

官房備機密第五七二號
昭和十九年十月六日

海軍省副官

内令提
要登載

各 廳 長 殿

海軍軍用郵便所ニ於テ小爲替事務取扱ニ關ス
ル件通牒

今般海軍軍用郵便所ニ於テ左記要領ニ依リ小爲替ノ振出及拂渡
事務ヲ開始セラレ候

記

- 一 現地海軍部隊(軍人、軍屬ヲ含ム)相互間ニ送受スル官公
金ニ限リ取扱フモノトス
- 二 取扱料金ハ無料トス
- 三 小爲替證書有效期間ハ百二十日トス
- 四 其ノ他一般小爲替ノ例ニ依ル

水機密第二四三號ノ一
昭和十九年九月二十九日

水 路 部 長

關係各廳長殿

根室近傍地圖取扱區分變更ノ件通牒

首題ノ件ニ關シ大本營陸軍參謀部ヨリ別紙ノ通牒牒有之候條了
知相成度

(別紙)

大本營
陸軍部參密第五二七號

根室近傍地圖取扱區分變更ノ件通牒

昭和十九年九月二十六日

大本營陸軍參謀部總務課長

水路部長殿

「軍事極秘」タル左記地圖ヲ「軍事極秘」ニ變更セラレタルニ付
依命通牒ス

追テ既ニ交付ヲ受ケアルモノハ保管者ニ於テ祕區分標記ヲ訂
正竝ニ一連番號ヲ削除シ本通牒ノ日附ヲ以テ保管原簿整理相
成度

記

五萬分一地形圖根室近傍

一號	納沙布	一一號	床潭
二號	根室北部	一二號	磯分内
三號	根室南部	一三號	標茶
四號	別海	一四號	尾幌
五號	厚床	一五號	昆布森
六號	落石	一六號	大樂毛
七號	姉別	一七號	鋼路
八號	霧多布	一八號	舌幸
九號	三股	一九號	白楸
一〇號	厚岸		

○雜款

○海軍特攻部庶務處理ノ件

海軍特攻部庶務ハ海軍潜水艦部ニ於テ處理可致ニ付海軍特攻部
宛(同部長宛ヲ含ム)ノ書類等ハ海軍潜水艦部氣付(別ニ海軍
潜水艦部宛寫一通送付ノコト)ニテ送付相成度
(海軍特攻部)

○事務開始

海防艦生名籍裝具事務所ヲ九月十日大阪市此花區櫻島南之町一
七廿立造船株式會社櫻島造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一〇一航空戰隊司令部ハ九月十五日神奈川縣高座郡大和町厚
木海軍航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

第四百一十一號輸送艦裝具事務所ヲ九月二十八日佐世保海軍工
廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
(電話番號 佐世保工廠 一二七六番)

伊號第四百一潛水艦裝具事務所ヲ十月一日佐世保工廠内ニ設
置シ事務ヲ開始セリ
(電話番號 佐世保工廠 一二七七番)

○解隊

第五五三海軍航空隊ハ九月三十日解隊
殘務整理ハ第一美帆航空基地ニ於テ之ヲ行フ

秘海軍公報 第四八三號 昭和十九年十月十日

一三五九

0119

○事務所撤去

第一一二號輸送艦艦裝員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

樞艦裝員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

伊號第三百七十一潜水艦艦裝員事務所ハ十月二日之ヲ撤去セリ

○轉勤者赴任ニ關スル件

當分ノ間戰闘第三〇三飛行隊ヘノ轉勤者ハ鹿兒島航空基地ニ向ケ赴任ノ事ニ取計相成度

(第二〇三海軍航空隊)

○正誤

秘海軍公報第四八一七號令達欄内令第一二一九號中「進攻丸」ハ「進政丸」ノ、同第四八一八號令達欄内令第一二四一號中「第十五特別根據地隊」ハ「第十五根據地隊」ノ孰モ誤

○本日海軍公報發行セズ

0120

秘

海軍公報 第四八二三號

昭和十九年十月十一日(水) 海軍大臣官房

○令 達

内令第一一四六號

伊號第三百七十一潛水艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府卜定メラル

昭和十九年十月二日

海軍大臣

内令提
要登載

内令第一一四七號

海軍施設本部補給部規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十月四日

海軍大臣

内令提
要登載

第二條第一號及第二號中「特設海軍建築部及特設海軍設營隊」ヲ「特設海軍施設部及特設設營隊」ニ、同條第三號中「特設海軍建築部」ヲ「特設海軍施設部」ニ改ム
同條中第三號ヲ第四號、第四號ヲ第五號トシ第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
三 海軍施設本部配當資材ノ準備及供給ニ關スルコト

(内令提要卷一、二六ノ二頁参照)

内令第一一四八號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

内令提
要登載

秘海軍公報 第四八二三號 昭和十九年十月十一日

昭和十九年十月五日

海軍大臣

驅逐艦、一、等秋月型ノ項中「香月」ノ下ニ「夏月」ヲ、同松型ノ項中「橘」ノ下ニ「葛」ヲ加フ

潜水艦、一、等伊二百一型ノ項中「伊號第二百四」ノ下ニ「伊號第二百五」ヲ、同伊三百六十一型ノ項中「伊號第三百七十二」ノ下ニ「伊號第三百七十三」ヲ、同三等波百一型ノ項中「波號第百六」ノ下ニ「波號第百七」ヲ、「波號第百九」ノ下ニ「波號第百十」ヲ加フ

海防艦、御藏型ノ項中「御藏」ノ下ニ「久米」ノ下ニ「竹生」ヲ、「四阪」ノ下ニ「崎戸」ヲ、同第一號型ノ項中「第五十五號」ノ下ニ「第五十七號、第五十九號」ヲ、「第六十三號」ノ下ニ「第六十五號」ヲ、「第七十五號」ノ下ニ「第七十九號」ヲ、同第二號型ノ項中「第七十六號」ノ下ニ「第八十二號、第八十四號、第百二號、第百四號、第百六號」ヲ、「第百三十八號」ノ下ニ「第百四十四號」ヲ加フ
輸送艦、一、等第一號型ノ項中「第十三號」ノ下ニ「第十四號、第十五號」ヲ加フ

(要内令提要三、三三頁参照)

内令第一一四九號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ件

一三六一

0121

中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

南西方面海軍航空廠第二支廠ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五〇頁参照)

内令第一一五〇號

驅逐艦 鷲

伊號第三百七十三潛水艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦 夏月

伊號第二百五十五潛水艦

波號第百八潛水艦

波號第百十潛水艦

第五十七號海防艦

第五十九號海防艦

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

第二百二號海防艦

第四百四號海防艦

第四百六號海防艦

第四百四十四號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

第六十五號海防艦

第十四號輸送艦

第十五號輸送艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

内令第一一五一號

第二百二十四號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム

昭和十九年十月五日

海軍大臣

内令第一一五二號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正

昭和十九年十月五日

海軍大臣

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十六號(馬)」

内令提要
要登載

内令提要
要登載

ノ次ニ「第二百二十四號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一一五三號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月五日

海軍大臣

第四監視艇隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海形丸、第七住吉丸、第二千勝丸、福田丸、第一日之出丸、第一繁伍丸、第二松生丸、第二號明神丸、昭榮丸、長榮丸、第七大黒丸、第一新屋丸、第三松福丸、第一大喜丸、第三會漁丸、徳壽丸、龍蔵丸、第五南薩丸、第十一號住吉丸、第三大黒丸、大鳳丸、第二號富士丸
--

(内令提要卷一、一五三頁参照)

内令第一一五四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年十月六日

海軍大臣

内令提要
要登載

内令第一一五五號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

第二百八號驅潜特務艇

右本籍ヲ鎮海警備府ト定ム

昭和十九年十月六日

海軍大臣

内令提要
要登載

内令第一一五六號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月六日

海軍大臣

内令提要
要登載

横須賀防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二百二號(横)」ヲ次ニ「第二百八號(横)」ヲ加フ
鎮海防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第百號(鎮)」ノ次ニ「第二百五十號(鎮)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照)

内令第一一五七號

昭和十八年内令第二二二三號航空兵器供給所名稱及所在地ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十月八日

海軍大臣

内令提要
要登載

秘海軍公報 第四八二三號 昭和十九年十月十一日

一三六三

0123

第四十一海軍航空廠大湊補給工場	青森縣下北郡大湊町
第四十一海軍航空廠下北補給工場	青森縣下北郡川名部町
第四十一海軍航空廠千歳支廠千歳補給工場	北海道千歳郡千歳町
第四十一海軍航空廠千歳支廠美幌補給工場	北海道網走郡美幌町
第四十一海軍航空廠三澤補給工場	青森縣上北郡三澤町
第四十一海軍航空廠大湊支廠大湊補給工場	青森縣下北郡大湊町
第四十一海軍航空廠大湊支廠下北補給工場	青森縣下北郡川名部町
第四十一海軍航空廠大湊支廠三澤補給工場	青森縣上北郡三澤町
第四十一海軍航空廠千歳補給工場	北海道千歳郡千歳町
第四十一海軍航空廠美幌補給工場	北海道網走郡美幌町

(内令提要卷一、三〇ノ二四ノ一頁参照)

官房經機密第一六〇六號
臨時軍事費特別會計歲出臨時軍事費(款、項)諸支出金(目)死傷手当(節)ノ解疏中「及昭和十一年勅令第四百六十六號」ノ「昭和十一年勅令第四百六十六號及昭和十九年勅令第五百二十六號」ニ改メ昭和十九年九月一日ヨリ之ヲ適用ス
昭和十九年十月七日

海軍大臣

フ

ニ改ム

官房人機密第一八四二號
本年十月十日現在第二十四海軍建設部職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ小スング民政部ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ
昭和十九年十月十日
海軍大臣

官房經機密第一六一〇號
昭和十九年官房經機密第一二二三號中左ノ通改正ス
昭和十九年十月十日
海軍大臣

第三號ニ左ノ一號ヲ加フ
其ノ他 雜給及雜費、家屋其他借料
(參照) 昭和十九年官房經機密第一二二三號ハ寄宿令ニ收容ノ雇員傭人及工員(職員ヲ含ム)ニ寢具損耗料ヲ支給スルノ件ナリ(昭和十九年八月十三日秘海軍公報)

○雜 款

○正誤
十月五日附秘海軍公報雜款欄軍械秘海軍公報第二〇號(乙配付)配付先ノ項「各鎮守府、各警備府(除海南)」ハ「各司令部、」ノ誤

秘

海軍公報

第四八二四號

昭和十九年十月十二日(木)

海軍大臣官房

○令 達

達第三四四號

海軍軍人軍屬係給家族下渡規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十一日

海 軍 大 臣

第五條第一項第三號中「特設燃料廠補給部ヲ派遣元應トスルモノニ付テハ海軍省經理局」ヲ削ル

第十一條第三項ヲ左ノ如ク改メ同條第四項ヲ削ル

第一項ニ該當スル者新所屬廳ニ着任シタルトキハ新所屬廳ノ主計長ハ速ニ家族下渡取止請求書二通ヲ作成シ一通ヲ證憑トシテ保管シ一通ヲ下渡廳ニ送付スルモノトス

附 則

本達ハ昭和十九年九月二十一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 昭和十九年七月十八日海軍公報(部内限)

○通 牒

經豫機密第三號ノ七四

昭和十九年十月十日

海軍省經理局長

秘海軍公報 第四八二四號

昭和十九年十月十二日

各歲入徵收官、支出官
各契約擔任官一殿

前金拂額返納ノ際ニ於ケル利子徵收ニ關スル
件通牒

自今契約者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因ル契約ノ解除又ハ更改ノ結果前金拂額ノ返納ヲ要スル場合ハ返納金ニ對シ契約擔任官ノ認定シタル利率(契約内容等ニ應ズル適當ナル一般利率ヲ標準トス)ニ依リ前金拂額ヲ爲シタル日ヨリ返納ノ當日迄ノ利子ヲ前金拂額ヲ爲シタル當該會計ノ歲入ニ徵收スル義トシ知相成度追テ之ガ收入科目ハ左ノ通

區 分	款 項	目 節	
		目	節
一般會計	雜 收 入	辨償及違約金	
臨時軍事費	軍 資 金	軍 資 金	辨償及違約金
特別會計	軍 資 金	軍 資 金	雜 收 入
海軍工廠資金	材 料 物 品 收 入	雜 收 入	辨償及違約金
海軍火藥廠	海軍火藥廠	雜 收 入	辨償及違約金
海軍燃料廠	海軍燃料廠	雜 收 入	辨償及違約金
作業會計	海軍燃料廠	雜 收 入	辨償及違約金
作業會計	海軍燃料廠	雜 收 入	辨償及違約金

經給第一九一號

昭和十九年十月十一日

海軍省經理局長

一三六五

0125

關係各廳長殿

俸給家族下渡實施細目ノ件中改正ノ件通牒

昭和十九年經給第一一四號中左ノ通告正ス

十五 家族住所ヲ移轉シタルトキハ下渡廳ハ關係主計長ノ變更
通知書ヲ俟ツコトナク家族ノ申出ニ依リ移轉先ニ送金スルコ
ト

十六 規則第十七條ノ規定ニ依ル家族下渡現在員調ヲ送付スル
トキハ家族渡ヲ爲サザル者ノ名簿(理由附記)ヲ添付スルコト
(参照) 昭和十九年七月十八日海軍公報

航本機密第一二六五二號

昭和十九年十月十日

關係各廳長殿

海軍航空本部總務部長

試製紫電用「プロペラ」角度ニ關スル件照會

首題ノ件過回転防止裝置ノ作動確認ヲ容易ナラシムル爲自今左
記ニ依リ使用ノコトニ定メラレ候

記

項目	舊角度	新(訂正)角度	記事
高節	六十六度	六十四度	上記變更ニヨリ飛行 機使用上支障ヲ生ズ ルコトナシ
低節	二十六度	二十四度	
機構式ピッチ制 限裝置作動角度	二十四度	二十二度	

○雜 款

合同海軍葬儀執行

期日、及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所	記事
十月十九日 〇九〇〇	故海軍少將加藤良之助外諸勇士	吳海軍人事部長	吳軍港第一練兵場	佛式	
十月二十一日 一〇一五	故海軍少將村田利男外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀海兵團	同	
十月三十一日 〇九三〇	故海軍大尉徳山雄逸外諸勇士	岡山地方海軍人事部長	岡山市山下國民學校	同	

○本日軍極秘海軍公報第二二號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

秘

海軍公報 第四八二五號

昭和十九年十月十三日(金)
海軍大臣官房

○令 達

官房需第二四八號
速第二九六號ニ依ル艦營需品定額表中改正ニ件ヒ軍用机甲ニ對スル定數ハ從來ノ机甲同丙及同申ノ定數ヲ合算シタルモノトス
昭和十九年十月十一日
海軍大臣

官房艦第四〇四號
戰時海軍工作廳工事費規則特例中左ノ通改正ス
昭和十九年十月十一日
海軍大臣

第三號書式ヲ別紙ノ如ク改ム

(別紙添)

(昭和十九年八月二十七日官房艦第三五九號參照)

○通 牒

軍務一機密第九七三號
昭和十九年十月十二日

海軍省軍務局長

各 廳 長 殿

秘海軍公報 第四八二五號 昭和十九年十月十三日

海軍刀整備並ニ頒布ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ本年官房軍機密第八八號ヲ以テ處理シ來リタル處今般漸ク計畫生産量(月産二、五〇〇口)ノ整備ニ到達セルモ生徒、學生等ノ卒業員數激増ニ件ヒ大口需要殺倒シツツアル爲各地水交社ニ於ケル頒布ヲ潤澤ナラシムルガ如キハ明年中期頃迄ハ望ミ得ザル狀況ニ在リ而モ緊急戰備ノ完遂上資材勞務ノ極度ニ逼迫シアル此ノ際更ニ現生産計畫ヲ増強スルハ適當ト認メ難キニ付當分ノ間左記ニ依リ處理致度候條可然協力指導方取計相成度

記

- 一 現生産計畫遂行ニ對シ今後豫想セララル各般ノ隘路ハ速ニ之ヲ打開シ整備數量ノ確保ヲ期ス
- 二 生産ノ主務ヲ艦政本部トス
依テ外裝用資材中軍需局調達ニ屬スルモノハ速ニ其ノ枠ヲ艦政本部ニ移管ス
- 三 軍刀用袋ノ生産ニ關シ左ノ通改ム
(イ) 現用西陣織ノ華美ナルモノ(評判極メテ良キモ)ハ示達濟ノ一萬本分ヲ流ス外當分ノ間之ヲ生産ヲ停止ス
(ロ) 爾後ハ稍無地ノ簡素ナル袋ヲ以テ代換スル如ク軍需局ニ於テ研究決定ス
- 四 配給、販賣等ニ關スル中央事務ノ主務ヲ軍需局トシ之方實

0127

一三六七

- 行ハ左ニ依ルヲ建前トス
- (イ) 大口需要ハ各需要廳ヨリ横須賀水交社ニ發註スルモノトシ横須賀經理部ハ中央ト連絡ノ上之方配給ヲ統制ス
 - (ロ) 小口販賣ハ各地方水交社ヲシテ實施セシメ各經理部之方配給ヲ統制ス
 - (ハ) 代金ハ大口需要ニ在リテハ各需要廳ヨリ小口需要ニ在リテハ各地水交社ニテ取纏メ之ヲ横須賀水交社ニ拂込ムモノトス
 - 五 軍刀頒布ノ範圍ハ戰地勤務者ニ限定スルヲ建前トシ其ノ他ノ者ニ對シテハ餘裕アル場合ノミ頒布ニ應ズルモノトス
- (註)
- (一) 第五號ノ趣旨ニ依リ戰地外ノ官術學校等ニ新ニ勤務スル者等ニ對シテハ必然軍刀ノ頒布ハ無之次第ナリ
 - (二) 軍刀外裝ノ資材、勞力ヲ節減スル爲戰時中ニ限り一層之方簡素化ヲ圖ル如ク研究中ナリ
 - (三) 其ノ他ニ關シテハ本年官房軍機密第八八號ニ依ルモノトシ詳細ハ各主務部局ヨリ其ノ都度連絡ス

軍需第一九〇號

昭和十九年十月十一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

主計長主管艦營需品定額表定數ニ關スル件申進

今般達第二九六號ヲ以テ削除相成候機度ハ之ヲ額外備品(講堂用机)トシテ定數設定ノ上命數限リ使用ノコト相成可候條可然了知相成度

航本機密兵無線第八四六號

昭和十九年十月十二日

海軍航空本部總務部長

- 第一、第二、第十一、第二十一、第六十一
 - 第二十二、第六十二
 - 第三十一、第四十二
 - 第五十
- 海軍航空廠總務部長
海軍航空廠長
各廳長

艦船部 兵器供給標準ノ件照會
特設艦船部隊 通信長主管(航空)

昭和十九年九月十六日官房空機密第二四一五號ニ依リ廢止セラレ候首題ノ件至急燒却ノ上其旨通報相成度

○雜款

○十月中ニ於ケル海軍關係員ニ對スル講習實施豫定表

番號	種別	期日	場所	員數	記事
一	船長對潜警戒	10/11	潜校	約二五	第三次第一回
二	船長機關對潜警戒(下旬)	10/11	潜校	約三〇	第二次第一回
三	船船通信士電探	10/11	通約	約二五	第三次第二回

四	運轉士見張術 (一)運 運轉士機關士應急術 (一)運	約三五	航	約三五	第二次第三回
五	運轉士機關士應急術 (一)運	約三五	航	約三五	第二次第三回
六	船員應急術講習 甲板長操機長船匠 (一)運	約三六	航	約三六	第一次第一回
七	高等船員水測講習 (一)運	約三〇	橫防	約三〇	第三次第三回
八	普通船員水測講習	約五〇	橫、舞、紀 各防及潛校	約五〇	第六次第二回
九	普通船員水測講習	約五〇	橫、舞、紀 各防及潛校	約五〇	第六次第三回
一〇	船舶機關長及操機長 (一)運 (一)運 (一)運	約三〇	工機校	約三〇	第四次第二回
一一	船員回鑿汽機焚火講習 (一)運	約四〇	工機校	約四〇	第二次第一回

備考
十月十日ヨリ青函連絡船機關科職員ニ對シ函館ニ於テ工機校教官派遣ノ下ニ回鑿汽機焚火(基本操作及訓練)ノ講習ヲ實施中
(海軍省教育局)

○書類(除兵備品)引繼ニ關スル件
本日附第三航空戰隊司令部ハ解散シ第一航空戰隊司令部新設セラレタル所從來第三航空戰隊司令部ニ配布又ハ貸與シアル首題物件ハ總テ當部ニ引繼受領セシニ付了承相成度
(第一航空戰隊司令部)

○開隊
小富士海軍航空隊ハ十月一日福岡縣糸島郡前原町ニ開隊セリ

追テ同日附ヲ以テ福岡海軍航空隊小富士分遣隊ハ解散セリ
第一〇二三海軍航空隊ハ十月一日千葉縣木更津航空基地ニ開隊セリ
追テ當隊ヘノ轉勤者ハ木更津航空基地ニ向ケ赴任セシメラレ度
大和田通信隊大平分遣隊ハ十月十日千葉縣山武郡大平村ニ開隊セリ

○家族移轉料支給ニ關スル件
首題ノ件ニ對シテハ昭和十九年官房經第八八號第十三條第一項(ロ)ニ該當シ支給セラレザリシ所昭和十九年九月官房經第九〇六號ニ依リ支給ノ件認許セラレタルニ付轉勤者ニ對シテハ家族移轉料支給ノコトニ取計ハレ度
(埼玉縣北足立郡大和田町 大和田通信隊)

○基地移轉
大村海軍航空隊濟州島分遣隊ハ十月三日左ニ移動セリ
朝鮮慶尙南道金海郡大渚面(釜山航空基地)
京義線龜浦驛ヨリ徒歩約一時間

○事務開始
第十三號輸送艦機裝員事務所ヲ十月五日三菱重工業株式會社橫濱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

秘海軍公報 第四八二五號 昭和十九年十月十三日

三六九

0129

○残務整理

第四百十三防空隊ハ八月五日付解隊残務整理ハ菲島海軍航空隊
内ニ於テ之ヲ行フ

海軍中尉高橋重雄外四名九月二十四日飛行訓練中事故ノ
爲殉職十月七日一三〇ヨリ香取航空基地ニ於テ佛式ニ
依リ海軍葬儀ヲ執行セリ
(第七五二海軍航空隊香取派遣隊)

(官房艦第四〇四號別紙)

(昭和十九年十月十三日祕海軍公報)

昭和 年度 月分 船體 (甲鐵)(機關)(砲煩)(水雷)(電氣)(無線)(有線)(機雷)
(音響)(航海)(光學)(航空)(電波)(雜費)(機械) 豫算現況調書

昭和 年 月 日 調 工廠(工作部) 部(課)

科 目 (節)	豫 算 額 A	本月迄支出額 B	翌月以降年度 内支出見込額 C	合 計 B+C=D	豫算過不足額 A-D	記 事
合 計						

0131

B4 287 X 864

備考、裏面ノ通

第三號書式 備考

- 一 本表ハ工作應ニ於ケル所要豫算ニ付當該年度ノ狀況ヲ迅速ニ知ルニ在リ
- 二 本表ハ左ノ通區分調製スルモノトス
 - (イ) 事業部(實驗部ハ事業部ニ準ズ以下同ジ)別トシ更ニ左ノ豫算別ニ別紙ニ調製スルモノトス但シ他應受託工事、廠内他部受託工事ニ付テハ當該事業部主務工事ニ適宜合算スルモノトス
船體、甲鐵、機關、砲煩、水雷、電氣、無線、工作物タル有線通信、(以下有線ト略稱ス)機雷、音響、航海及光學(以上艦政本部主務)、航空(航空本部主務)、並ニ電波(電波本部主務)
 - (ロ) 雜費及機械(有線ヲ除ク)(以上艦政本部主務ノモノ、航空本部主務ノモノ及電波本部主務ノモノニ區分調製ノコト)ハ各別ニ會計部ニ於テ取極メ調製スルモノトス
- 三 豫算額ハ事業梗概ニ記載シアルモノハ其ノ額(但シ配付制限額アルモノハ其ノ額ニ依ル)記載シアラザルモノハ訓令通牒、認許等ノ當該年度額(前年度ヨリ繰越額共)ヲ計上スルモノトス
- 四 訓令通牒工事額ガ事業梗概額ニ充タザル場合ニ於テハ實際不用額ヲ記事欄ニ記載スルモノトス
- 五 豫算過不足額ニ對シテハ其ノ處分方法ヲ記事欄ニ記載スルモノトス
- 六 本表ハ九月二十日十二月二十日及三月末日現在ニテ調製シ翌月五日(三月末分ハ四月二十日)迄ニ左ノ通送付スルモノトス
 - 艦政本部主務ノモノ 艦政本部ニ一通 但シ航空本部系工作應ニ在リテハ航空本部ニ送付スルモノトス
 - 航空本部主務ノモノ 航空本部ニ一通 但シ艦政本部系工作應ニ在リテハ艦政本部ニ送付スルモノトス
 - 電波本部主務ノモノ 電波本部ニ一通 但シ艦政本部系工作應ニ在リテハ艦政本部ニ送付スルモノトス
- 七 本表ハ迅速ニ承知スル要アルヲ以テ全部ノ取極メヲ待タズ調製済ノ分ヨリ提出スルモノトス

0132

秘海軍公報 第四八二六號 昭和十九年十月十四日

福	福	福	利	第	第	島	長	長	大	大	大	大	高	清	住	住	住	住	住
榮丸	榮丸	榮丸	榮丸	天神丸	天神丸	海丸	久丸	運丸	徳丸	信丸	神丸	洋丸	砂丸	榮丸	榮丸	榮丸	吉丸	吉丸	吉丸
七二二〇	三〇八二五	三九二〇一	三四一四	五九〇四	三七七二	三七九七三	七八七〇	三一五五六	三九九四七	四五七六九	四八九六	四九一〇三	三三八一四	三五六七一	七四〇九	七三五九	三五二四	五三八三	一五四七〇
に	は	ろ	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	ろ	ろ	ろ	い	へ	ほ	に
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
福	福	福	利	天	天	海	久	運	徳	信	神	洋	砂	榮	榮	榮	吉	吉	吉
榮丸	榮丸	榮丸	利丸	天神丸	天神丸	海丸	久丸	運丸	徳丸	信丸	神丸	洋丸	砂丸	榮丸	榮丸	榮丸	吉丸	吉丸	吉丸
八	八	八	八	明	第	第	美	妙	萬	萬	北	福	第	第	第	第	福	福	福
幡丸	幡丸	幡丸	幡丸	明神丸	神明丸	神明丸	保丸	見丸	榮丸	榮丸	進丸	神丸	福徳丸	福壽丸	福壽丸	福壽丸	吉丸	吉丸	榮丸
一五六九五	一五六五八	五六八〇	六一三三	三七三一七	四六五七〇	三四二九一	四九三七〇	六三〇七	一六四四	五〇六八三	四〇五二七	一五六一二	四一四七六	三〇五五九	四八四九二	四八三一四	三四八五四	四九一一五	三一九八
に	は	ろ	い	い	ろ	い	い	い	は	ろ	い	い	い	い	は	ろ	い	い	ほ
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
八	八	八	八	明	第	第	美	妙	萬	萬	北	福	第	第	第	第	福	福	福
幡丸	幡丸	幡丸	幡丸	明神丸	神明丸	神明丸	保丸	見丸	榮丸	榮丸	進丸	神丸	福徳丸	福壽丸	福壽丸	福壽丸	吉丸	吉丸	榮丸

秘海軍公報 第四八二六號 昭和十九年十月十四日

一三七四

大	和	丸	四一〇六五	は	號	大	和	丸
吉	野	丸	三八〇四八	い	號	吉	野	丸
龍	神	丸	四三八〇〇	に	號	龍	神	丸

○雜款

○辭令公報發送

昭和十九年度後期下士官任用進級辭令

右外戰部隊ニ對シテハ九月三十日發送済

追テ未到達ノ向ハ最寄艦隊司令部、根據地隊司令部、補充部

其ノ他陸上各部ニ就キ調査セラレ度

(舞鶴海軍人事部)

○學生入校期

昭和十九年官房人機密第三一三號ニ依ル第二十六期特修科學生
(艇長) 及昭和十八年官房人機密第四一五號ニ依ル第二十七期
特修科學生(對潜)ハ十一月四日(土)始業ニ付其ノ前日迄ニ
着校セシメラレ度

(海軍對潜學校)

○移轉

臺灣海軍航空隊本隊ハ九月十八日舊高雄海軍航空隊(高雄航空
基地)ニ移轉致候條自今當隊宛轉勤者ハ左記ニ依ラレ度

記

(島内) 高雄州岡山郡岡山街彌陀庄イ二二八
(岡山驛下車徒歩約四十分)
(島外) 鹿兒島縣鹿屋航空基地氣付 イ二二八
(臺灣海軍航空隊)

○事務開始

第六十號海防艦裝具事務所ヲ十月五日神戸市兵庫區東出町一
丁目神戸海軍監督官川崎出張所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理

第四百十八防空隊ハ九月十五日解散、殘務整理ハ九州海軍航空
隊鹿屋派遣隊内ニ於テ之ヲ行フ

○正誤

九月二十五日附秘海軍公報第四八〇八號令達欄海軍戰時特例給
與規則中改正「第四表ノ六ヲ第四表ノ七トス」ハ「第四表ノ六
中第四表ノ五ヲ第四表ノ六ニ改メ同表ヲ第四表ノ七トス」ノ誤

○本日軍機秘海軍公報第三二二號(甲配付)發行セリ



0135

海軍公報 第四八二七號

昭和十九年十月十五日(日) 海軍大臣官房

○令 達

内令第一一五九號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令提
要登載

軍艦、巡洋艦二等長良型ノ項中「長良」、「名取」ヲ、同航空母艦大鷹型ノ項中「大鷹」、「同敷設艦ノ部中「白鷹」ヲ削ル

驅逐艦、一等神風型ノ項中「朝風」、「夕風」ヲ、同初等型ノ項中「敷波」ヲ、同白露型ノ項中「五月雨」ヲ、同松型ノ項中「松」ヲ削ル

潜水艦、一等伊十型ノ項中「伊號第十」ヲ、同伊十七型ノ項中「伊號第二十九」ヲ、伊十六型ノ項中「伊號第十六」ヲ、同伊五十二型ノ項中「伊號第五十五」ヲ、同二等呂三十五型ノ項中「呂號第四十八」ヲ、同呂五百型ノ項中「呂號第五百一」ヲ削ル

海防艦、占守型ノ項中「松輪、佐渡」ヲ、同御藏型ノ項中「日振」ヲ、草垣ヲ削ル

輸送艦、一等第一號型ノ項中「第二號」ヲ、同二等第百一號型ノ項中「第百二十九號」、「第百三十三號」、「第百五十二號」ヲ削ル

號」ヲ削ル

掃海艇、第十九號型ノ項中「第二十八號」ヲ削ル

驅潛艇、第一號型ノ項中「第六號」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第一一六〇號

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令提
要登載

運送艦、知床型ノ項中「鶴見」ヲ、同

速吸ノ項ヲ削ル

(内令提要卷三、四一頁参照)

内令第一一六一號(軍機秘海軍公報(乙配付)ニ掲載)

内令第一一六二號

驅逐隊編制中左ノ通改定セララル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令提
要登載

第十九驅逐隊ノ項ヲ削ル

秘海軍公報 第四八二七號 昭和十九年十月十五日

一三七五

秘海軍公報 第四八二七號 昭和十九年十月十五日

<p>第二十七驅逐隊ノ項ヲ削ル 第三十驅逐隊ノ項中「夕風」ヲ削ル 第四十三驅逐隊ノ項中「松」ヲ削リ「横」ノ下ニ「桐」ヲ加フ (内令提要卷一、六八頁参照)</p>		<p>内令第一一六三號 潛水隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 内令提要登載</p> <p>第十五潛水隊ノ項中「伊號第十六」、「伊號第二十九」及「伊號第五十五」ヲ削ル 第三十四潛水隊ノ項中「呂號第四十八」ヲ削ル (内令提要卷一、七〇頁参照)</p>		<p>内令第一一六四號 砲艦隊編制左ノ通定メラル 昭和十九年十月十日 海軍大臣 内令提要登載</p>	
<p>第一砲艦隊 伏見、隅田</p>		<p>砲艦隊編制 隊名 砲艦名</p>		<p>第二十一砲艦隊 勢多、堅田 第二十二砲艦隊 比良、保津 第二十三砲艦隊 熱海、二見 第二十四砲艦隊 鳴海、多多良</p>	
<p>右帝國軍艦籍ヨリ除カル</p> <p>横須賀鎮守府在籍 朝風 五月雨 朝風 五月雨</p> <p>吳鎮守府在籍 朝風 五月雨 朝風 五月雨</p> <p>佐世保鎮守府在籍 夕風 夕風</p>		<p>内令第一一六五號</p> <p>吳鎮守府在籍 白鷹 白鷹</p> <p>佐世保鎮守府在籍 大鷹 大鷹</p> <p>舞鶴鎮守府在籍 長良 長良</p> <p>軍艦名取</p> <p>海軍大臣 内令提要登載</p>		<p>勢多、堅田 比良、保津 熱海、二見 鳴海、多多良</p>	

一三七六

舞鶴鎮守府在籍

驅逐艦 松

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

橫須賀鎮守府在籍

伊號第十六潜水艦

呂號第五百一潜水艦

吳鎮守府在籍

伊號第二十九潜水艦

伊號第五十五潜水艦

佐世保鎮守府在籍

伊號第十潜水艦

舞鶴鎮守府在籍

呂號第四十八潜水艦

右帝國潜水艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

海防艦 松 輪

海防艦 佐 渡

舞鶴鎮守府在籍

海防艦 日 振

海防艦 草 垣

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

橫須賀鎮守府在籍

第二號輸送艦

吳鎮守府在籍

第一百五十二號輸送艦

佐世保鎮守府在籍

第一百二十九號輸送艦

第一百三十三號輸送艦

右帝國輸送艦籍ヨリ除カル

橫須賀鎮守府在籍

第二十八號掃海艇

右帝國掃海艇籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

第六號驅潜艇

右帝國驅潜艇籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

特務艦 速 吸

舞鶴鎮守府在籍

特務艦 鶴 見

右帝國特務艦籍ヨリ除カル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令第一一六六號
特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令提
要登載

秘海軍公報 第四八二七號 昭和十九年十月十五日

一三七七

第三監視艇隊ノ項中「第三愛宕丸」ヲ削ル
 第四監視艇隊ノ項中「大信丸」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五二頁参照)

内令第一一六七號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令提要
要登載

横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第五昭南丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一一六八號

右特設掃海母艦トシ吳鎮守府所管ト定メラレタル「~~第五昭南丸~~」ヲ削ル

汽船 第五昭南丸

右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

漁船 第三愛宕丸

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

漁船 大信丸

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 帝洋丸

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令第一一六九號
 左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ如ク定メテ
 昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令提要
要登載

船名	特設艦船種別	所管
漁船 喜久丸		
同 第一高知丸		
同 第六虎丸		
同 第一親船丸		
同 源勝丸		
同 漁勝丸		
同 第五帝神丸		
同 大孝丸		
同 第二全勝丸		
同 第十八號住吉丸	特設監視艇	横須賀鎮守府
同 第一號大晴丸		
同 第十二事代丸		
同 第二振興丸		
同 第十五振興丸		
同 新山丸		

同	第五萬榮丸
同	第五號鹿島丸
同	第六勇喜丸
同	第十號大黒丸

内令第一一七〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

第三十三潜水隊ノ項中「呂號第六十二」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一一七一號

右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メラル 驅逐艦 花

舞鶴鎮守府練習兼警備潜水艦

呂號第六十二潜水艦

右警備潜水艦卜定メラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

内令第一一七二號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

内令提要
要登載

秘海軍公報 第四八二七號 昭和十九年十月十五日

第二十七魚雷艇隊ノ項中「814」ノ下ニ「815 816 817」ヲ、「823」ノ下ニ「826 834 835」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第一一七三號

南西方面海軍民政部令中左ノ通改正セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

第二條中「フロリス島以東ヲ除ク」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ七三頁参照)

内令第一一七四號

南西方面海軍民政部令中左ノ通改正セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

第二條表小スング民政部ノ項中管轄區域ノ欄「フロリス島以東ヲ除ク」ヲ削ル

別表中小スングノ欄「六十七」ヲ「九十四」ニ、「二百十」ヲ「二百六十」ニ、「二百八十一人」ヲ「三百五十八人」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ八三頁参照)

内令第一一七五號

特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地

内令提要
要登載

一三七九

秘海軍公報 第四八二七號 昭和十九年十月十五日

一三八〇

正セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

吳鎮守府所管ノ部中

第二十四海軍建設部
根拠地隊 第二十四海軍建設部
ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ四〇頁参照)

内令第一一七六號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所
中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十日

海軍大臣

第二十四海軍建設部、第二十四海軍建設部クーバン支部及第二
十四海軍建設部ワインガツプ支部ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ四九頁参照)

内令第一一七七號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改
正セラル

昭和十九年十月十日

海軍大臣

佐世保鎮守府ノ部中第七六二海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加
フ、

内令提要
要登載

内令提要
要登載

第七六三海軍航空隊

宮崎航空基地(宮崎縣宮崎郡)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一一七八號

三式二號測程儀教範別冊ノ通定ム

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシ
昭和十九年十月十日

海軍大臣

官房經第九四九號

當分ノ間各學校ノ分校(部内限呼稱ノモノヲ含ム)ニ於テ要ス
ル通常物品ハ各其ノ本校ト別個ニ之ガ保管出納ヲ爲スコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ當該分校勤務ノ教頭又ハ之ニ準ズル者ヲ通常
物品出納命令官、分校勤務ノ首席主計科士官ヲ通常物品會計吏
トス。

昭和十九年十月十四日

海軍大臣

○通牒

恩第三二七號

昭和十九年十月十四日

海軍省人事局

關係各廳御中

恩給年敘勳年加算一覽ノ件通知
支那事變及大東亞戰爭關係地域別恩給年、敘勳年加算一覽表別
紙ノ通ニ有之候爲參考
(別紙添)

海人機密第一八〇號

昭和十九年十月四日

海軍省 **内令提**
大要 陸軍省

關係各廳長殿

豫備士官電報區別符、竝ニ席次ニ關スル件申改

正ノ件通牒

海人機密第八二號ニ依ル首題ノ件左記ノ通改メラレ候條了知相
成度

記

一 電報區別符ノ項ニ

一般要務班 ヨム 分隊士等ノ要務專修者 ヲ追加ス

二 艦艇班專修科目ノ欄ヲ「航海學校、水雷學校、對潛學校、
橫須賀砲術學校、吳練習戰隊等ニ於テ艦艇乗員ノ教程(講習)
ヲ受ケタル者」ニ改ム

經艦機密第三號ノ三六

昭和十九年十月三日

海軍省經理局長

秘海軍公報、第四八二七號 昭和十九年十月十五日

聯合艦隊參謀長
聯合艦隊主計長
海上護衛參謀長 殿

艦隊經費分任出納官吏ノ呼稱等ニ關スル件照會

本年官房經機密第一一八八號ニ依リ主計科准士官以上ノ配員ヲ
キ艦船部隊等ノ支拂ニ屬スル經費掌理ノ爲聯合艦隊又ハ海上護
衛總司令部附ヲ兼務セル陸上各部勤務ノ主計科士官ニ艦隊經費
分任出納官吏ヲ命ゼラルトキハ當該地名ヲ冠シ、方面陸上
臨時分任出納官吏(例、昭南方面陸上臨時分任出納官吏)ト呼
稱スルモノトシ掌理セシムベキ艦船部隊ヲ指定セラルルモノニ
付テハ海軍大臣及海軍經理部長ニ對スル報告又ハ通知ニ當該艦
船部隊名ヲ附記スルコトニ取計相成度

○雜款

○司令驅逐艦變更

第三十驅逐隊司令ハ九月二十日司令驅逐艦ヲ夕月ニ變更セリ

追テ關係書類ハ各艦宛寫ヲ送付相成度

○基地移轉

當隊九月十五日左記ニ移轉ニ付轉勤者ハ日豊線都城驛下車赴任
ノコトニ取計ヲ得度

記

宮崎縣都城市 都城航空基地氣付 ヲ參九七

(第一四一海軍航空隊)

一三八一

○事務所移轉

十月三日第四十一海軍航空廠本廠ヲ大湊ヨリ千歳ニ移シ事務ヲ開始セリ本廠、支廠、分工場所在地左ノ通

第四十一海軍航空廠

北海道千歳郡千歳町

第四十一海軍航空廠美幌分工場

北海道網走郡美幌町

第四十一海軍航空廠大湊支廠

青森縣下北郡大湊町

第四十一海軍航空廠大湊支廠三澤分工場

青森縣上北郡三澤村

(第四十一航空廠)

○移轉

第三百二十八設營隊ハ九月二十八日大村市ヨリ吳海軍施設部内ニ移轉セリ(吳線廣驛下車徒歩約十分)

○事務開始

第二百七號海防艦艇裝員事務所ヲ九月十六日大阪市西成區北加賀屋町二一浪速船渠株式會社内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一百十二號海防艦艇裝員事務所ヲ九月二十五日大阪府泉南郡多奈川町崎重工業泉州分工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一百四十一號輸送艦艇裝員事務所ヲ九月二十八日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話 工廠 一一二七六)

波號第四百四潜水艦艇裝員事務所ヲ十月七日三菱重工工業株式會社

神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第五十四號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十九日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

第二十四設營隊ハ九月五日解隊殘務整理ハ第二百一設營隊内ニ於テ之ヲ行フ

○電話新設

電話 臺北 七九三三

(臺北地方海軍人事部)

○本日軍機秘海軍公報第二三號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、各航空隊、同支廠、航空技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

(恩第三二七號別紙)

(昭和十九年十月十五日海軍公報)

支那事變及大東亞戰爭關係地域別恩給年、敘勳年加算一覽表

地域	加算期間	加算種別	備考	支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海		支那及其ノ沿海																							
				自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至																				
支那及其ノ沿海	自昭和二三、七、七 至一六、四、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三内閣告示(以下單ニ告示ト記ス)第 四號第一支那事變ノ部第一項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	佛領印度支那及其ノ沿海	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	佛領印度支那並ニ其ノ ノ港域	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	九龍半島(舊英國租借 地)、香港及泰並ニ其ノ 港域	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	(1)南島、南洋諸島、 新南島、南洋諸島、 新南島、南洋諸島、 新南島、南洋諸島、	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	(2)緬甸、馬來半島、蘭領 東印度、英領、英領、 東印度、英領、英領、 東印度、英領、英領、	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	(3)太平洋及印度洋 ノ他太平洋及印度洋 ノ他太平洋及印度洋 ノ他太平洋及印度洋	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	直接出動部隊ニ關ス ル勤務ニ從事シ功績 アリタル者	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	直接防衛ニ關スル勤 務ニ從事シタル者	自一七、四、一 至一六、五、三〇	戰地職務(三月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	千島列島	自昭和一九、二、一 至昭和一九、五、一三	戰務乙(二月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)	小笠原島(南島ヲ除ク)	自昭和一九、二、一 至昭和一九、五、一三	戰務乙(二月)	昭和二三告示十八號第二項(終期) 同第一六告示七號第一項(終期)

海軍公報 第四八二八號

昭和十九年十月十六日(月) 海軍大臣官房

○令 達

達第三四六號

海軍徵備船船員給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十五日

海軍大臣

第十一條ノ四、甲船員乗船中引續キ三月ヲ超エテ内地(北海道、本州、四國及九州ヲ謂フ以下之ニ同ジ)外ノ區域ニ航海シタルトキハ内地最終港灣ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ起算シ最初ノ三十日間ハ報酬又ハ給料ノ一割、其ノ後ノ期間ニ在リテハ三十日毎ニ報酬又ハ給料ノ一割ニ相當スル金額ヲ累加シタル金額ヲ長期就航手當トシテ支給ス但シ其ノ金額報酬又ハ給料ノ十五割ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條ノ五、前條ノ規定ニ該當スル甲船員内地沿岸外ニ於テ船舶ノ沈没其ノ他不可抗力又ハ公務ニ原因スル傷痍疾病ニ依リ其ノ配置ヲ離レタルトキハ内地到着ノ日迄ノ期間ニ付テハ引續キ乗船シタルモノト看做ス

第十一條ノ六、長期就航手當ハ公務又ハ不可抗力ニ非ズシテ配置ヲ離レタルトキハ其ノ日ノ翌日ヨリ復歸ノ前日迄之ヲ支給セズ敵ノ俘虜ト爲リタルトキ亦同ジ

第十一條ノ七、長期就航手當ハ内地港灣歸着ノ際之ヲ支給ス

附則

本令ハ昭和十九年一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
本令適用ノ日現ニ内地外ノ區域ニ在リタル甲船員ニ對シテハ第十一條ノ四ノ規定ノ適用ニ付同船員ノ内地最終港灣ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ其ノ期間ヲ起算ス但シ昭和十九年一月一日前ノ航海期間ニ對シテハ長期就航手當ハ之ヲ支給セズ

(參照) 海軍機密會計法規類集一三三頁

官房機密第一六一九號

昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十二日

海軍大臣

第一項第一號中「修學中ノ者」ノ下ニ「新兵並ニ甲種及乙種豫科練習生ヲ含ム以下之ニ同ジ」ヲ加ヘ同項第二號中「又ハ奄美大島以南ノ琉球諸島」ヲ「伊豆諸島、種子島以南ノ薩南諸島又ハ琉球諸島」ニ改メ同項第六號中「通信隊」ノ次ニ「海兵團」ヲ加フ

第二項中「俸給ノ五分ノ一」ノ下ニ「(准士官以上、候補生及見習士官ニシテ増俸月額十九圓ニ滿タザルトキハ月額十九圓)」ヲ加フ

秘海軍公報 第四八二八號 昭和十九年十月十六日

一三八三

0145

第三項ヲ左ノ如ク改ム

第一項ノ増俸ヲ受クル者公務ニ起因スル傷疾疾病ニ依リ戰地外ニ於テ入院シ又ハ治療ヲ受クル爲勤務ニ服セザルトキハ指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ出務ノ日ノ前日迄前項ニ定ムル増俸ヲ支給ス
第一項ノ増俸ヲ受クル者公務ニ起因セザル傷疾疾病ニ依リ戰地外ニ於テ入院シ又ハ治療ヲ受クル爲勤務ニ服セザルトキハ指定地ニ到着又ハ入院若ハ受療ノ日ノ翌日ヨリ出務ノ日ノ前日迄増俸ヲ停止ス

附則

本令ハ昭和十九年十月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第一項第二號ノ改正規定ハ昭和十九年九月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 昭和十六年官房機密第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ノ給與ノ件ナリ
海軍機密會計法規類集一一九頁

○通 牒

教育機密第三五五號

昭和十九年十月十四日

内令提
改登載

海軍省教育局長
海軍省人事局長

關係各廳長殿

海軍豫備員タル通信關係應召准士官及下士官ノ各部配屬中ニ於ケル教育指導等ニ關スル件申進

今般海軍豫備員生教程履修ノ官立無線電信講習所卒業者タル首題准士官及下士官ヲ充員召集ノ上各海上護衛隊、通信隊及在勤武官府等ニ配員セシメラルコトト相成候處右ハ今年初メテ海軍豫備員令ヲ適用セラレタルモノニシテ軍事教育トシテハ横須賀海軍通信學校ニ於テ約五月中旬(自四月中旬)ノ教育ヲ受ケタルノミナルト將來召集解除後ハ直チニ船舶無線通信士ノ職ニ就クベキ者ナルニ付テハ各部配屬中ノ教育指導等ニ關シ左記配慮ノ上然ルベク取計相成度

記

- 一 一般ニ若年ニシテ實務ノ經驗ナキニ付當初ハ概ネ准士官ニ在リテハ一等下士官、上等兵曹ニ在リテハ二等下士官ノ實務ヲ體驗セシメ逐次上級階級ノ配置ノ業務ニ就カシムル如クシテ概ネ四月ノ修練ニヨリ兵曹長又ハ上等下士官トシテノ識能ヲ修得セシムル如ク指導スルコト
- 二 海軍軍事一般ニ關スル識能尙不充分ニ付各部配屬中極力實地實物ニ就キ之ガ教育ヲ行フコト
- 三 召集解除後ノ業務配置ニ鑑ミ主トシテ左ノ如ク對船舶通信又ハ護衛關係ノ通信配置ニ就カシムルコト
- (イ) 保有通信技術ノ低下ヲ防止スルタメ事務的的配置ニ充ツルコトナク實務配置ニ就カシムルコト之ヲ爲准士官ト雖モ無線交信當直ニ立タシムルコト

(ロ) 在勤武官府等ニ配セラレタル者ハ一般船舶ノ通信術指導ニ當ラシムルハ差支ナキモ前項同様交信當直ニ立タシムルカ又ハ送受信技術訓練ヲ勵行スルコト

航本機密第一二八四一號
昭和十九年十月十五日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

三式電氣發火裝置(三十一號爆彈用)用蓄電池及乾電池取扱ニ關スル件照會

近ク供給豫定ノ首題品ハ其ノ機能上保管取扱並ニ使用ニ際シ左ノ點留意ヲ要スルニ付可然取計相成度詳細ハ三式電氣發火裝置取扱説明書及三式八〇番(二五番)三十一號爆彈一型取扱説明書(所要ノ向ニ配付ス)ヲ參照相成度
一 三式電氣發火裝置用蓄電池ハ初度充電済ノモノヲ供給スルモ月二回以上補充電手入ヲ要ス充電ニハ三式電氣發火裝置用小型充電器(多數同時ニ充電ノ際ハ一般用充電器ニテ可、但シ此ノ場合充電電流ニ就テハ特ニ注意ヲ要ス)ヲ使用ノコト備考

三式電氣發火裝置用蓄電池要目

電壓 一一V

電液比重 一、三〇一、三三一

補充電電流 約一A同時間六〜八時間

秘海軍公報 第四八二八號 昭和十九年十月十六日

容量(常溫) 一〇Aニテ約一〇分間

二 三式電氣發火裝置用乾電池ハ高溫高濕ノ場所ヲ避ケ通風良キ處ニ格納保管ヲ要ス

尙本乾電池ハ零下五度以下ノ使用ニ耐エズ

三、第二項ノ貯藏ヲ爲スモ本乾電池ハ變質、消耗等ニヨリ其ノ命數ハ約二ヶ月ナルヲ以テ附屬ノ試験器ニ依ル檢査ヲ勵行シ電壓一個ニ付六五〜七五V(計器赤印範圍)ニアラザル場合新品ト引換ヲ要ス

○ 雜 談

○機密圖書、圖誌供給(送付)ニ關スル件照會
首題ノ件南西方面艦隊司令部及第三南遣艦隊司令部宛供給(送付)ノ圖書、圖誌等ハ重複スルヲ以テ自今南西方面艦隊司令部宛ノモノノミ供給(送付)ノコトニ取計相成度
(南西方面艦隊兼第三南遣艦隊副官)

○事務開始

大濱艦裝員事務所ヲ十月一日横濱市中區綠町三菱造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二百三十號驅潛特務艇裝員事務所ヲ十月七日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第百十四號輸送艦裝員事務所ヲ十月七日大阪市港區南福崎町

大阪造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第三十九號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十七日之ヲ撤去セリ

驅逐艦檣裝員事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

燒津航空基地(假稱)設立準備員事務所ハ十月一日之ヲ撤去セリ

信濃艦裝員事務所ハ十月五日之ヲ撤去セリ

伊號第三百六十九潜水艦艇裝員事務所ハ十月九日之ヲ撤去セリ

○正誤

六月二十日内令第七七九號中「三等」ヲ削ル、十月十一日秘海軍公報第四八二三號令達欄内令第一一四八號中「波號第百六」ハ「波號第百七」ノ、「波號第百七」ハ「波號第百八」ノ孰モ誤、同項中「羽節」ノ下ニ「男鹿」ヲ、「ヲ削リ、「崎戸」ヲ、「ノ下ニ「鶴來型」ノ項中「羽節」ノ下ニ「男鹿」ヲ、「ヲ加フ

○本日軍極秘海軍公報第二四號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各海軍經理部、海軍水雷學校、臨時魚雷艇訓練所、第一特別基地隊